

令和4年度けやき幼稚園学校評価 (R4年度末作成) 公表シート

～本園の教育の理解のために～

I 教育目標と教育方針

目標 : 武蔵野の土と緑のなかであって、自然に親しみ、明るく健康で質実な精神を養う

方針 : 少人数による家庭的な手作りの保育を行なう

- ・のびのびと遊ぶこと、規律を守ることの両立による集団生活を営む
- ・早期の知育に偏らず、人間関係の基礎を学ぶ場として多様な経験を得させる
- ・保護者との良好な信頼関係を築き、家庭と手を携えて園児の生活と安全を守る

解説:

本園はちいさな幼稚園である。小さいからこそできる、一人一人を見つめる家庭的な手作りの保育を行なうことを全教職員の共通理解の根底に置く。大きなけやきの木の下で、のびのびと、かつ規律を守って過ごす毎日が、子どもの心と体の両面に確かな力をはぐくむことを信じ、子ども自らの育つ力を引き出すこと、仲間同士育ち合っていく姿を援助することを旨として、教育内容を検討し、日々実践していく。

上記の目標は、創立時の建学の精神を掲げたものである。子どもの育ちには自然が欠かせない、教育は田園の中で寺子屋のように行ないたいと、この武蔵野の地に武蔵野学園を設立した創立者の理想を汲んでいる。時代は流れ、今では田園ではなく住宅街の一角になったが、できるだけ、戸外で遊ばせ、緑と土に親しませたいと考える。そして、少人数で仲間とも先生たちとも家族的に触れ合い、一人一人がその一員として大切にされながら、他の子や園のためにも役立っているという自覚が持てるようにしていきたい。そのためには、昔の原っぱでのわんぱく集団のような異年齢での交流も有益と考える。

質実な精神とは、与えられるばかりでなく、与えることの豊かさを知ることでもある。お話や絵本で豊かな心を育て、体育や美術や音楽で心を解き放ち、様々な自己表現の機会を得させる。早期の知育に偏ることなく、基本的な生活習慣と、規律ある生活を尊び、自分のことは自分でする意欲を引き出す。愛情と安心の感じられる環境の中で、人との関わりを濃密にし、きちんと自己主張していくことで、同時に思いやりの心も育つ。

こうした教育を実りあるものにするためには、園とご家庭が信頼関係で結ばれ、お互いに感謝の心を持ち合うことが必要である。そして、園が家庭的であるためには、その一員として保護者同士も「おたがいさま、ありがとう」の心で、子どもたちが育ち合う姿を見守る態度がなくてはならない。送迎時や、土曜行事日など、保護者と担任や他の教職員とがコミュニケーションをとる機会を多く設け、有意義に活用していきたい。また親同士が知り合い、こどもの育成に力を合わせることで、温かい雰囲気の中での家庭的な保育の実現につながると考える。

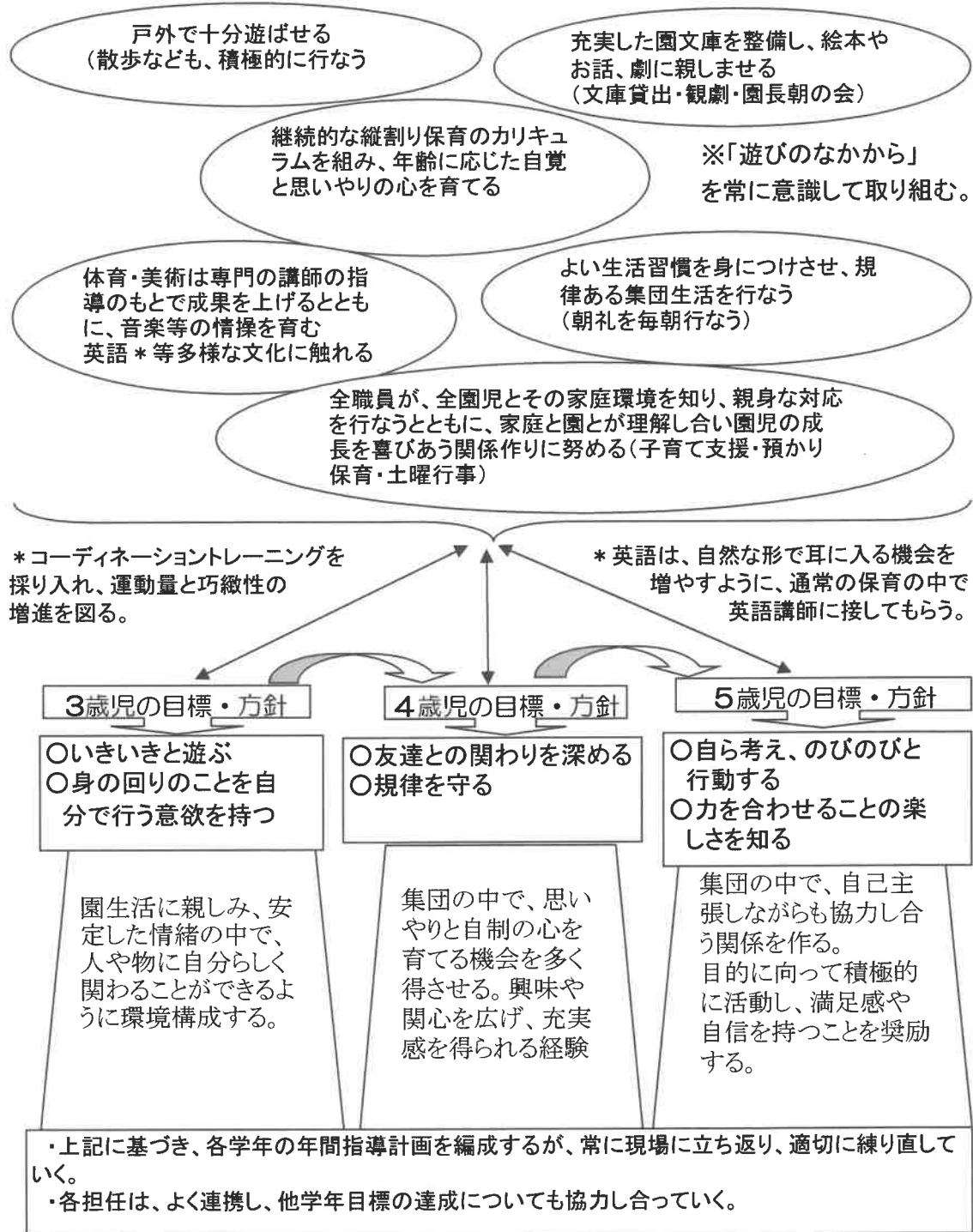
II 本年度(令和4年度)、重点的に取り組む目標・計画

建学の精神の保持：少子化が止まらず、園児数減少が一層顕著になっていく中、保護者の保育所よりのニーズを満たすことに走らず、幼稚園本来の役割を果たし、且つそのことへの理解を求めていく。

安全管理と保育の質の維持：園児自身が安全な行動を自覚的にとれるよう遊具や設備の持つ特性を吟味し、また安全管理を機械任せにすることなく、血の通った見守りを行う。また保護者との信頼関係を築くことによって保育の質を維持する。

コロナ禍の影響からの脱却：手洗い等の良い習慣は保持するものの、のびのびとした行動や集団遊びの特性が生かされる工夫や、保護者の参観の機会をできるだけ増やすように保育計画を立てる。

特色(重点事項～教育目標・方針の実現・実践のために)・学年別目標と方針



地域貢献＝子育て支援センター的役割

就園前の支援: 子育て相談・文庫貸出し・行事招待他

(例: 園庭開放・陽だまりひろば・ミニ見にシアター・季節の遊び会)

卒園後の支援: ホームカミング推奨・文庫貸出し・課外活動サポート・行事招待他

Ⅲ 評価項目の達成および取り組み状況

評価項目※	取組状況
密にならずに、かつ丁寧な保育を行う 幼稚園ならではの経験をさせる 生の体験を重視する 子どもにとっての最善の利益を図る	<p>・園児の手洗いの励行や、マスク着用の際のルールを徹底し、黙食と食事中の見守りの強化などでクラスターの発生を阻止できた。日々の検温を欠かさず、保護者の信頼を得るとともに、必要な場面ではマスクを外すことへのご了解もいただいた。</p> <p>・いつ休園を余儀なくされるかわからない状況の中でも、継続的な保育を重視し、子ども同士で十分遊べる時間と空間の提供、保護者以外の大人との交流の機会を増やすことを心がける。幼稚園は集団生活、社会生活の場であるという認識で、オンライン授業やや個食(孤食)を避け、登園日にはできるだけストレスをためない、ストレスを発散できる場を園児に提供することを心がける。多くの行事で、従来に近いやり方を模索し、伝統を途切らさない工夫を行った。散歩の励行、宿泊保育、いもほり遠足、人形劇鑑賞会、アウトリーチコンサートや芝居、講演会など開催多数。</p> <p>・園児の成長ぶりを保護者と園・保護者同士が共有できる場を多く設定した。夏休み中は預かり保育日数を増やすことだけでなく、共に楽しく、学べる、遊べるをテーマに園児及び卒園生や家族も巻き込んでのサマースクールを実施した。園の機能を、子どもを預ける側の便宜を図ることだけでなくという認識を、園だけでなく、地域にも発信する機会となった。</p>

Ⅳ 令和4年度の総合的な評価の結果

<p>令和4年度は2年来のコロナ対応の経験を活かし一日の流れや保育室の使い方などについてスムーズに行え、園児の側もマスクの着脱に慣れ、黙食にも自然に対応できていた。食育、歌、吹奏楽器の扱いや親密な関係づくりや語らいの場面はコロナ以前のようなわけにはいかなかったが、体育や美術、英語、絵本を通じての情操教育等の質の高さは維持できた。通園バスでの事故や不適切保育といったニュースの度に、つど気を引き締めるための申し合わせを行い重大事故は、マスク越しの短時間ミーティングでは負の情報の共有が優先になりがちで、結果職員のストレスにつながるリスクもあった。3学期には園を挙げての「笑顔で」を重視した活動を行い、「コロナ後」を視野に入れた活動を採り入れて次年度に備えた。入園児激減の園の多い中、次年度園児数が前年度を上回ったことは保育と子育て支援事業が評価を得た結果と思う。</p>

Ⅴ 今後取り組むべき課題(令和5年度に向けて)

課題	取り組み方法
少子化の中での縦割り保育の存続	少子化の中で家庭でも一人っ子のケースが増え、縦割り保育の意義は大きいですが、それを未就園児および卒園児まで広げて、保育の中に取り込んでゆくことで、地域の中での子育て支援センター的な役割を確立していきたいと思う。乳幼児親子の居場所、小学生の居場所の要素も取り込むことで、園がオープンな場として広い意味での教育的な場になれるように改善点を見出していきたい。厳しい経済状況の中でも家庭優先で子育てできる環境作りに、微力ながら貢献できるアイデア、改善点を探っていく。伝統的な行事や、集団での生の触れ合いを重視し、子育て支援の段階から保護者に子育ての楽しさを伝える取り組みをする。保護者との信頼関係を築き、連携を図る。コロナ下で低下傾向にある運動能力の増進(体育正課他)、笑顔を取り戻す様々な取り組み(絵や工作、ダンス、観劇等)を行っていく。
保育の質の向上と多様化する社会のニーズ	
運動能力の向上と情操教育の充実	
建学の精神の保持	幼稚園への見方が社会的に変化しつつある今こそ、建学の精神に立ち返る必要があり、その意味でも70周年の記念的な事業を皆が参加できる形で行う。

Ⅳ 学校関係者の評価

<p>コロナの影響により見直しを迫られた日常保育及び各行事について工夫が定着し、また徐々に活動の制限を少なくしていったこと、そのうえで、クラスターなどの発生を防ぎ、年度の最後を「笑顔」で締めくくれたことは評価できる。社会的には園バスでや園外保育での事故、不適切保育の発覚などが取りざたされているが、自園とは無縁の事としてみるのではなく、他山の石として研鑽し、これまで積み上げてきた伝統と保護者からの信頼を大事にしたい。</p>
